

豊かな環境の中で豊かな生活を目指して

(当麻町 匿名希望)

1 経営の概要

- (1)有機栽培経験年数 12年
- (2)経営規模 2.6ha (全面積有機栽培)
- (3)労働力 2人
- (4)作物別作付面積 (平成20年)

水稲	トマト	かぼちゃ	ばれいしょ	たまねぎ	その他
130a	10a	50a	30a	30a	10a

2 有機農業取組の経緯等

- (1)有機農業の取組動機
 - ・豊かな環境の中で、豊かな生活を目指し有機農業に取り組んだ。
- (2)取組経過
 - ・当麻町で農業実習後、新規就農した。
 - ・就農当初は養鶏と水稲中心の経営を行っていたが、養鶏による労働力の負担が大きかったため養鶏をやめ、野菜(トマト等)の導入を進めた。
- (3)有機農業取組の考え方(こだわり)
 - ・安全でおいしいものを消費者へ提供することを第一に生産を実施している。
 - ・生産基盤としての土と水を良い状態で次世代に引き継ぎたい。
- (4)有機JAS認定の取得
 - ・以前取得していたが、販売先の変更によりJAS有機の取得が販売先から求められなくなったため、認定取得を止めた。

3 有機栽培管理技術等の特徴

[有機栽培管理の概要]

作物名	品 種	作 型	栽培方法	種子	定植時期	収量(H2O) (Kg/10a)
水 稲	ななつぼし ほしまる		プール	購入	5/中	420
トマト	麗夏、麗容 りんか409	ハウス 半促成	断根 ポット	購入	4/中 ~6/下	5,000
ばれいしょ	とうや	露地		購入	5/中	2,500
かぼちゃ	味平	露地		購入	5/中	1,500
たまねぎ	きたはやて	露地		購入	4/下	3,000



写真 1 ばれいしょ栽培ほ場

[栽培管理技術等のポイント、工夫]

(1)土づくり

- ・堆肥：鶏ふん堆肥を使用している（1年かけて堆肥化したもの）。
- ・肥料：ぼかし肥料を購入し使用している。
その他 J A S 有機で使用可能なものを追肥等で使用している。
- ・緑肥：一時ばれいしょ後に緑肥えん麦を使用していたが、現在は作付けしていない。

(2)病虫害防除

問題となる病虫害

- ・水 稲：いもち病、ドロオイムシ
- ・ト マ ト：かいよう病
- ・たまねぎ：軟腐病、乾腐病
- ・かぼちゃ：うどんこ病
- ・ばれいしょ：疫病

病虫害対策

- ・水 稲：温湯消毒（プール育苗（苗立枯細菌病））
- ・ト マ ト：粘着テープ（害虫） 通路に除草シートを敷くことによる湿度の抑制
- ・たまねぎ：早生品種の栽培

(3)雑草対策

- ・水 稲：深水管理、機械除草、手取り除草
（平成 20 年にそばの籾殻散布による抑草効果試験を実施し、効果が認められた）
- ・ト マ ト：手どり除草
通路は除草シートを使用
- ・たまねぎ：マルチ栽培
- ・かぼちゃ：中耕除草、手どり除草
- ・ばれいしょ：中耕、培土、マルチ栽培（一部）

(4)その他

育苗管理

- ・ト マ ト：断根育苗により、根の生育促進を図っている。

- ・水 稲：プール育苗により、育苗労働時間の短縮を図っている。
(パイプハウス内にビニールまたはポリフィルムを用いて簡易水槽(プール)を作り、湛水状態で育苗を行う方法で、灌水作業や温度管理を簡略できるため、育苗労働時間を短縮できる)

4 生産物の出荷・販売

(1)生産物の出荷・販売

- ・野菜(トマト、たまねぎ、かぼちゃ、ばれいしょ):ラディッシュボーヤ
- ・米 :個人販売(宅配)
- ・トマト:ジュースに加工し販売(宅配)

(2)販売先との取り決め

- ・ラディッシュボーヤと年度初めに作付計画を決め、出荷前に出荷量を調整している。

5 消費者との交流の取組

- ・小中学校の農作業体験の受け入れを行っている。
- ・当麻町有機農業推進協議会による農作業体験の受け入れを行っている。
- ・消費者による農作業体験の受け入れを行っている。

6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

(1)生産者グループ

- ・当麻町の有機農業者及び有志による会「当麻町 有機農業を考える会」会員として町内有機農業の推進に貢献している
- ・平成20年より当麻町有機農業推進協議会会計として有機農業総合支援対策の実施に貢献している。

(2)市町村・農協等の支援

- ・当麻町有機農業推進協議会に町、農協、農業委員会、土地改良区が参加し、町を上げて有機農業の推進に取り組んでいる。

7 今後の課題と方向

(1)地域の課題

- ・有機農業の認知度を上げたい。
- ・有機農業の普及を行いたい。

(2)経営の課題

- ・販路の拡大により経営のリスク分散を行いたい。

作成：上川農業改良普及センター